

## 初期症状が重要な副作用について No. 3

### ★ 血栓症（けっせんしょう : Thrombosis）

血栓症とは、血のかたまり（血栓）で血管が突然つまる病気です。どこの血管がつまるかによって、脳梗塞、心筋梗塞、肺塞栓、深部静脈血栓症など病名が変わってきます。症状は、どこの血管がつまるかによって変わりますが、ほとんど何の前触れもなく突然発症することが共通した特徴です。脳梗塞では、「手足のまひやしびれ」、「しゃべりにくい」といった症状、心筋梗塞や肺塞栓では「胸の痛み」や「呼吸困難」、深部静脈血栓症では「片方の足の急激な痛みや腫れ」がみられます。また、腎臓にできた血栓で腎不全になる場合もあります。

### 症 状

「手足のまひやしびれ」、「しゃべりにくい」、「胸の痛み」、「呼吸困難」、  
「片方の足の急激な痛みや腫れ」



何らかの薬を使用していて、このような症状がみられた場合は、  
放置せず、必ず主治医に伝えてください！！

### 原 因 医薬品によって引き起こされる場合があります。

女性ホルモンや副腎皮質ステロイド薬、止血剤、白血病治療薬などの医薬品の服用により起こることがありますが、薬以外の原因として、手術（特に足の整形外科手術、産婦人科手術）後に深部静脈血栓症や肺塞栓を発症することがあります。



## ★ 白室脳症（はくしつのうしょう : Leukoencephalopathy）

大脳半球の白質は、大脳皮質（「灰白質」とも呼ばれます）の神経細胞から出る神経線維から構成されています。この大脳白質が主に障害されるのが、白質脳症であり、初発症状としては、「歩行時のふらつき」が最も多く、次いで「口のもつれ」、「物忘れ」が起こります。進行すると、様々な程度の意識障害が起こり、昏睡状態になることもあります。

### 症 状

「歩行時のふらつき」、「口のもつれ」、「物忘れ」、「動作緩慢」など



何らかの薬を使用していて、このような症状がみられた場合は、  
放置せず、必ず主治医に伝えてください！！

### 原 因

医薬品によって引き起こされる場合があります。

副作用として「白質脳症」を起こす医薬品は主に抗がん剤ですが、代表的な医薬品としては、ティーエスワン®、ユーエフティ®、5-FU®、メソトレキセート®、ネオーラル®などがあります。また、「白質脳症」でみられる症状は、医薬品の副作用以外に病気自体（脳卒中、悪性腫瘍の脳転移など）でも起こりますので、副作用で起きているのか、他の原因による症状であるのかを主治医に診断してもらうことが大切です。



## ★ 非ステロイド性抗炎症薬（NSAIDs）<sup>（エヌエスアイド）</sup>による喘息発作

### 症 状

「息をするときゼーゼー、ヒューヒュー鳴る」、「息苦しい」

症状は特徴的であり、典型的な発作では、原因となる医薬品を服用して短時間で、鼻水・鼻づまりが起こり、次に咳、喘鳴（ゼーゼーやヒューヒュー）、呼吸困難が出現し、徐々にあるいは急速に悪化します。意識がなくなったり、窒息したりする危険性もあり、時に顔面の紅潮や吐気、腹痛、下痢などを伴います。軽症例で半日程度、重症例で24時間以上続くこともあります。合併症を起こさない限り、原因となった医薬品が体内から消失すれば症状はなくなります。

### 原 因

アスピリンなどの非ステロイド性抗炎症薬（NSAIDs）あるいは解熱鎮痛薬により発作が引き起こされる喘息です。アスピリン喘息とも呼ばれますが、アスピリンだけでなく、ピリン系、非ピリン系に関わらずほとんどの解熱鎮痛薬が原因となります。市販のかぜ薬や解熱鎮痛薬でも起こることがあります。



### 【 注意 】

- ①飲み薬だけでなく、坐薬や塗り薬、貼り薬で症状が現れることもあります。症状の発現までに時間がかかり、医薬品と症状の因果関係が分かりにくいことがあります。
- ②受診する際には服用した医薬品をお持ちください。なお喘息の治療中で、あらかじめ吸入や緊急時の医薬品の服用など指示された処置がある方は、まずそれをおこなってください。